

「白老港第3商港区供用開始記念式典」の開催

白老町 産業経済課 港湾担当課長 赤城雅也

1. 白老港の概要

白老港は、北海道の南西部、胆振振興局管内のほぼ中央に位置し、白老町が管理する地方港湾です。本港は昭和57年8月に新規着工した北海道で最も新しい港湾で、平成2年12月に漁港区の一部を供用開始以来、平成7年5月に待望の第1商港区(水深5.5m岸壁2バース)、平成13年4月には第2商港区(水深5.5m岸壁3バース・水深7.5m岸壁1バース)及び流通活動の拠点となる公共中央1号上屋も併せて供用開始され、本港利用による輸送時間及び輸送コスト削減が図られていることなど港湾整備の効果が確実に表われ、取扱貨物量が増加し地域とともに発展してきました。



2. 第3商港区整備目的

本港は、建設途上の港であることから、現有施設だけでは地元企業の物流需要を扱うための係留施設延長が不足しているほか、大型岸壁が整備されていないため他港からの長距離輸送による非効率な物流形態を強いられているなど、地域産業の競争力を確保するための物流の効率化が大きな課題っており、内貿ユニッ



ト貨物輸送に対応した物流機能の拡充を目指して、北海道の地方港湾で初の水深11mの大型岸壁の整備が平成18年度から本格的に着工となりました。

3. 事業概要

事業内容

岸壁(水深11m)	240m
泊地(水深11m)	19.1ha
港湾施設用地	1.9ha
道路	1,048m
防波堤(西外)	290m(うち供用開始時は140m完成)
護岸(防波)	545m

事業期間 平成17年度から平成28年度(予定)

総事業費 約150億円(平成26年度以降の予定事業費を含む)

4. 供用開始記念式典

着工から8年を迎えた第3商港区整備事業は、防波堤を除く工事が完了し、11月2日に北海道開発局室蘭開発建設部、白老町の主催による供用開始記念式典が挙行されました。

式典には、主催者側から戀塚貴 室蘭開発建設部長、戸田安彦 白老町長が、来賓として深海正彦 国土交通省北海道局港政課長、川合紀章 北海道開発局港湾空港部長、堀井学 衆議院議員をはじめとした港湾及び地元関係者など約100名が出席し、盛大に供用開始が祝われました。

初めに、港湾管理者の戸田安彦 町長が「今後とも道内物流拠点としての充実に加え、地震、噴火等の大



供用開始記念式典テープカットの様子

きな災害時に貢献できる港として、機能的で利用しやすい港湾となり、なお一層地域に親しまれる港湾になっていくと考えている。」また、戀塚貴 室蘭開発建設部長は「第3商港区の供用により、道央圏物流の一翼を担う役割が一層大きくなり、地域経済への寄与が一段と高まったものと考えている。」と式辞を述べました。次に来賓の堀井学 衆議院議員ら国会議員5名、道議会議員2名からの祝辞、伊藤晃 苫小牧港湾事務所長による工事報告あり、その後町内外の関係者14名の方々によるテープカットが行われました。

5. 効果と利用

防波堤の整備が残されていますが、水深11m 岸壁からの荷役が可能となり、大型船舶による大幅な輸送コストの削減や第1・2商港区の狭隘解消が図られなど、様々なニーズに対応できるようになり、入港船舶の増加及び入港可能船舶の拡大による新規企業の利用により、地域経済の活性化や雇用の拡大などその効果が期待されます。